

令和4年度 第1回特別展

さつ たん てい だん  
お札探偵団



さつ  
お札のウラの  
なぞ  
謎にせまる

かい せつ しょ  
解説書



独立行政法人国立印刷局

お札と切手の博物館

# お札のウラってどんなだっけ？

## お札のウラの謎

ある町のお札探偵事務所に次のような相談がありました。  
「お札の表面にかかっている人は、国の代表的な人物なのは知っているけれど、お札の裏面にかかっている植物や風景はどうして選ばれたのか知りたい。」

「そういえばお札のウラはマークしていなかった。」  
「令和最大級の難問となりそうだ。気合を入れてとりかかろう。」  
さっそくお札探偵たちは、作戦会議をしました。



探偵 だいこく

「ぼくは、日本のお札の裏面について調査しよう。」



探偵 ほうおう

「じゃあ、ぼくは海外のお札の裏面について調査しよう。」



探偵 からくさ

「ぼくは、変わった裏面のお札について調査しようかな。」

あなた（ニックネーム： )  
「ここに調べたいことを書きましょう。たとえばお札の裏面に動物が描かれている国を探すなど。」



探偵たちは、謎に迫るためにいっせいに動き出しました。

この解説書では、お札探偵がお札の裏面について報告するために行ったそれぞれのミッション(展示では各コーナー)を章としています。

各章の最後には、探偵たちが調査し分かったことをまとめており、解説書の裏表紙に最終報告として総合的なまとめを書いています。

展示や解説書のお札の図を参考に、あなたもお札探偵の一員としてお札の裏面について新しい発見があったら、自分でも報告書を書いてみましょう。

※解説書中のお札の画像は、特に注意書きがない限り裏面ですが、2枚が重なっている場合は後ろが表面、手前が裏面です。



# 日本のお札のウラの歴史を探れ!



「まずは今のお札の裏面を確認してから、昔のお札を調べてみよう。  
あれ?お札って何年かおきが変わるって聞いたよ。そういえば、今みた  
いな姿のお札はいつからできたんだっけ…」

さっそく今の1000円(図1)の裏面を見てみましょう。

そこには、地模様を背景に大きい図柄で富士山と桜が描かれており、金額の数字やNIPPON GINKOの文字、そして、印章(ハンコ)を見つけることができます。これは、10000円や5000円も同様です。

では、お札の裏面の様子は昔から同じなのでしょう。時代をさかのぼって見てみましょう。

## 基本情報【お札のウラの要素】




-  図柄 (大きく描かれた絵や模様)
-  文字 (額面数字や発行元)
-  地模様 (細かい波線や幾何学模様など)



図1 日本銀行券E1000円 平成16(2004)年

## 地模様が出来たのは偽札が作られたから

地模様を印刷することとしたのは、それまでのお札に偽札が多く作られてしまったことが理由です。当時は、最新技術であった写真技術を使って偽札が作られていました。それまでのお札のようにシンプルな図柄を一色刷りした裏面(図2)では、簡単に複製が作られてしまったのです。

お札の裏面に初めて地模様が使われたのは、明治43(1910)年発行の乙5円(図3)です。乙5円には、真ん中の文字部分の背景の幾何学模様や左右の円形の飾り模様を地模様とし、それに図柄や文字、印章を重ねて印刷しています。

このお札以降、戦争や災害時に作られたお札を除いて全てのお札の裏面に地模様が印刷されるようになりました。

地模様と言っても様々なタイプがあります。お札の裏全面を細かい模様で覆うタイプやお札の図柄に重なるくらいの部分的な大きさのタイプ(図4)もあります。その印刷は、凸版印刷やオフセット印刷という一般的な方式が使われています。お札独特の印刷方式である凹版印刷は、インキが盛り上がり印刷されるので、図柄などを重ねて印刷するとせっかくのインキがつぶれてしまうため、地模様には使われていません。地模様と印刷方式が違う凹版印刷による図柄を刷り重ねることによって複製をしにくくしています。

昔のお札は今と比べて  
空白が多いなあ



図2 国立銀行紙幣(新券)1円  
明治10(1877)年



図3 日本銀行兌換券乙5円  
明治43(1910)年



図4 部分的な地模様(茶緑の幾何学模様)  
日本銀行兌換券丁5円 昭和5(1930)年

また、その色遣いについては、単色刷りが圧倒的に多かったのが、昭和32(1957)年発行のお札(図5)にザンメル印刷といって、1色ずつ刷り重ねず一度に3色印刷できるという、当時では最先端の技術が使われて以降、カラフルな地模様の印刷が使い続けられています。

## 昔のお札には長い文章が書かれていた

裏面に書かれた文字も昔と今では違いがあります。例えば、明治時代のお札には、お札を発行する理由(発行文言)やお札と同額の銀貨や金貨と交換できること(交換文言)、そのほか偽札を作った場合の罰則(罰則文言)が書かれています(図6)。

これらの文章が書かれたお札は、兌換券と呼ばれており、明治17(1884)年の兌換銀行券条例という法令によって兌換券の発行やお札と同額の銀貨や金貨と交換できること、そして、偽札を作ったときの罰則などが定められていました。昭和17年にこの取り決めが廃止されたために、それ以降のお札には交換文言などは書かれなくなりました。

これらは、明治後期のお札から裏面に大きく図柄が描かれるようになると、表裏面に日本語と英語の文章が書かれるようになり、やがて現在のようになり発行元と額面のみになります。

## 日本のお札の後姿は…

お札の「顔」といえば、人物肖像です。人の顔を全く同じに描くのは難しいので、偽造防止のため明治14年発行の改造紙幣で初めて日本のお札に登場して以来、現在までお札の顔であり続けています。一方、裏面に最初に登場した大きな図柄と言えば、明治6年発行の国立銀行紙幣(旧券)の図柄(図7)です。このお札は、アメリカ製で、その図柄は、日本からの依頼によって表裏とも日本の歴史の一場面や風物などが描かれています。後に続く国立銀行紙幣(新券)の裏面に描かれている恵比寿には、表面との関連はありません。これ以降、明治中期までのお札の裏面は文字や模様を中心に配置したデザインでした。明治32(1899)年発行の日本銀行兌換券甲10円(図8)で図柄が復活します。

このお札に描かれているのはイノシシです。イノシシがお札の表面の肖像である、和気清麻呂という奈良時代の役人の護衛をしたという逸話から、肖像人物に関連する図柄として描かれました。



図5 日本銀行券C5000円  
昭和32(1957)年  
右図から紫、茶、緑の3色が並んでいるのがわかる。

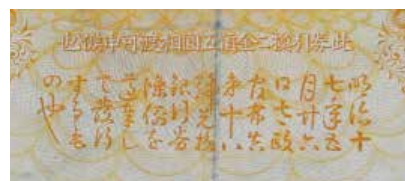


図6 日本銀行兌換券甲5円(明治32(1899)年)の裏面に書かれた文字

上：交換文言  
「この券引換に金貨5円あい渡し申すべきさうろ(このお札とひきかえに金貨5円を渡します。)」  
下：発行文言  
「明治17年5月26日太政官布告第16条兌換銀行券条例を遵奉して発行するものなり(兌換銀行券条例に従ってこのお札を発行しています。)」



図7 国立銀行紙幣(旧券)2円  
明治6(1873)年  
図柄は江戸城



図8 日本銀行兌換券甲10円  
明治32(1899)年



わ けのきよ まろ めいじ ねん さつ しょうぞう じんぶつこう ほ き  
 和気清麻呂は、明治20(1887)年にお札の肖像の人物候補として決められ  
 た7人の人物のうちの一です。戦前までのお札にはこの時選ばれた人物  
 たちが肖像としてお札の表面をかざり、その裏面には肖像に関連する  
 えがが 描かれる、甲10円のような例が出てきます。

しかし、戦後すぐに発行されたお札は、地模様がなく模様のみのもので  
 (100円は除く)、昭和25(1950)年から発行されたお札のシリーズで、再び裏  
 面の図柄が表面にまつわるものとなりました(500円を除く)。ちなみに、こ  
 のシリーズの裏面の図柄は全体を覆うような大きさで、地模様も同じ大き  
 さになっています。

日本銀行券Cシリーズでは、図柄については表面の肖像人物とは関連が  
 ないものが選ばれています(図9)。このスタイルは現在のお札も同じで、日  
 本の伝統模様や工芸品、富士山などの自然、または、タンチョウ、キジなど  
 の動物が取り上げられています。また、デザインは、昭和32年以降に作られ  
 たお札から枠模様がなくなり、すかし部分に空白をつくったことで、図柄  
 や地模様がコンパクトな印象を受けます。続く日本銀行券Dシリーズでは  
 すかしを除いて全体に図柄と地模様が描かれました。2000円(図10)には、  
 図柄に源氏物語 絵巻から一場面が描かれています。この画線のなかには  
 マイクロ文字という偽造防止技術が組み込まれています。そして、現在  
 のお札(図11)では、図柄が減り、地模様がみえる部分が広がっています。  
 これは、潜像模様という偽造防止技術が入ったためです。

これまでのお札の裏面は、図柄と地模様の組み合わせのみだったのが、  
 近年は偽造防止技術も組み込まれるようになり、デザインが進化している  
 のが分かります。



図9 日本銀行券C 1000円  
 昭和38(1963)年



図10 日本銀行券D 2000円  
 平成12(2000)年



図11 日本銀行券E 5000円  
 平成16(2004)年

## ほうこくしょ 報告書

## にっぽん さつ れきし 日本のお札のウラの歴史について

- 日本のお札の裏面には最初地模様がなかったが、偽札を作らせないために印刷されるようになった。  
 →地模様はお札にとって重要な役割を果たしている。
- お札に書かれている文章には、昔のお札が同じ額のコインと交換できると書いてある。  
 →昔のお札の価値はコインが保証しているということ。今は法律が保証しているよ。
- 裏面の図柄は、時代によって表面と関連しているものとそうでないものがある。  
 →今は表面との関連はなくても、日本が世界に誇れるものを描いている。偽造防止対策もバッチリだ。



# 世界のお札の表と裏を見比べよう！



「だいこくからの報告では、現在、日本のお札の裏面に描かれる図柄は、国の代表的なものではあるけれど、表面の図柄と関連はないということだ。世界のお札も日本と同じなのだろうか。どんな特徴があるのか調べてみよう…」

## 世界のお札のウラに描かれているもの

世界のお札も日本のお札のように表面に人物の肖像が描かれている国が多くありますが、なかにはユーロのように複数の国々が共通のお札を使うという場合や宗教上の理由から人物を避ける国もあります。

裏面も表面と同じく様々なタイプがあります。ここでは、どのような図柄が描かれているのか、表面との関係についても注目しながら見てみましょう。

## どっちもお札の「顔」

お札の表面に描かれる図柄として一般的なものは人物肖像ですが、イギリス（図12）やトルコ（図13）、タイなど、両面に人物肖像を描く国があります。イギリスやトルコは、表面の肖像に女王や建国の父を描き、裏面には文化人と呼ばれる科学や芸術などの各分野で活躍した人を描いていますが、タイのお札は両面に国王を描いています。また、両方の肖像は同じくらいのおおきさとなっっています。

お札に国王など国の象徴というべき人を描くのは、国民からの尊敬を集めたり業績をたたえたりする目的があります。これらの国のお札は国王や統治者が表面の図柄となるスタイルをずっと続けています。他の国では文化人の肖像を表面にすると、あくまでも国王を表面に描く国は、国王の権威がとて強いことを示しています。

なお、イギリスは世界の各地域に領土をもっていました。その歴史的つながりのある国ではイギリスと同じくお札の表面にエリザベス女王を描くことが多くありましたが、現在は各国独自のデザインでお札を発行する国がほとんどです。

## 表面の人物肖像に関連する図柄

近年、お札の表面に文化人の肖像を描く国が多くなってきており、日本もそれらの国の一つです。

日本では、お札の表面に文化人の肖像、裏面には世界的にも有名な富士山や国鳥（キジ）、美術作品などを描いていますが、これらの図柄には関連性がありません。しかし、イスラエルやスウェーデンなどのお札のように、裏面の図柄を表面の人物にまつわるものとする例があります。

イスラエルのお札のシリーズ（図14）は、イスラエルの文化貢献を将来に伝える目的でデザインされており、文学や詩の分野から影響のある人物が表面



図12 イギリス 20ポンド 2021年  
描かれているのは、画家のターナー



図13 トルコ 20リラ 2009年  
描かれているのは、建築家のミマル・ケムレティン



図14 イスラエル 200シェケル 2015年  
詩人ネイサン・アルターマンの詩から月明かりの植物が描かれている。



肖像として選ばれ、裏面にはその作品や業績が表されています。そして、スウェーデンのお札のシリーズは、偽造防止のために表面の図柄を代表的な人物の肖像としながらも、自然環境が豊かな国であることから自然環境を第二のお札のテーマとし、肖像人物に関連した地方の風景を裏面の図柄としています。例えば、20 クローナ（図 15）の表面には「長くつ下のピッピ」の作者アストリッド・リンドグレンの肖像を、裏面にはリンドグレンが生まれ育ったスモーランドの風景を描いています。

## テーマ性のある裏面の図柄

テーマに沿ってデザインされたお札をもう少し見てみましょう。

まずは、両面に共通のテーマがあるお札です。デンマークのお札（図 16）のテーマは、「デンマークの様々な地域をつなぐ架け橋と過去と現在のつながり」です。500 クローネの表面にはジールランド島とモン島の間にかかるクイン・アレクサンドリン橋、裏面には橋付近で発見された先史時代の銅製のバケツが描かれています。

マダガスカルのお札のシリーズは、「マダガスカル」の富」という大きなテーマです。経済、自然、文化など色々な分野の「富」がお札の図柄に表現されています。例えば、20000 アリアリ（図 17）では裏面にバナナ、米、ライチという主要な輸出品物が描かれ、表面のニッケル工場とともにマダガスカルの活力をアピールしています。

「風」をテーマにするのは、スイス 50 フラン（図 18）です。スイスの多様な側面を額面ごとに設定されたテーマを通して表現しています。山と風に乗るパラグライダーがモチーフで、山はスイスがこれまで重ねてきた歴史を、そして、その背景に描かれる等高線は、スイスの多様な風景を表現しています。

また、モルディブでは、5 ルフィアは、「コミュニケーションと社会的つながり」、10 ルフィアは「文化」、20 ルフィアは「産業と経済の進歩」というように、各額面で異なる共通テーマが決められたお札もあります。

その他、裏面のみに共通のテーマがあるお札もあります。

南アフリカは、多民族国家であるために、表面に人物ではなくビッグファインと呼ばれる動物を描いてきましたが、2012 年発行のお札から元大統領のネルソン・マンデラが肖像として描かれるようになったため、それまでお札の顔だった動物たちが裏面に描かれるようになりました。また、アンゴラでは、テーマを「自然の驚異」として国内の自然の風景を描き、フィリピンもテーマを「象徴的な自然」とし、固有の動植物を描いています。



図 15 スウェーデン 20 クローナ 2015 年



図 16 デンマーク 500 クローネ 2011 年



図 17 マダガスカル 20000 アリアリ 2017 年



図 18 スイス 50 フラン 2016 年

これらのように自然環境をテーマとする国がある一方で、カナダは、「各分野の発展・貢献」をテーマとし、100ドルには医療の発展を表す図柄が描かれています。同じくマラウイ(図19)も、経済成長(食品安全保障、観光など)やインフラ整備(水の開発)など、工業や産業など国の発展をテーマとしています。



図19 マラウイ 1000 クワチャ 2014年

## お札の後ろ姿いろいろ

デザインテーマを特に決めず、その国の代表的なものを描く国もあります。日本はそのような国の一つです。

### 【代表的な風景・自然】



山梨県本栖湖から眺めた富士山と桜  
日本銀行券E1000円 平成16(2004)年



レイナー滝、インコ、パトゥジューの花(ポリビア固有の動植物)

ポリビア 100ポリビアーノ 2019年



日本のお札は  
どれに当てはまる?

### 【文化財】



マヤ遺跡  
ベリーズ 2ドル 1991年



第5王朝の書記像  
エジプト 200ポンド 2015年



京都宇治の平等院鳳凰堂の鳳凰像  
日本銀行券E10000円 平成16(2004)年

### 【代表的な建造物】



イタイプダム(発電能力世界第2位)  
パラグアイ 10万グアラニー 2017年



世界遺産のアルカサル宮殿  
ドミニカ共和国 1000ペソ 2015年



文学寺院  
ベトナム 10万ドン 2004年

### ほうこくしょ 報告書

### せかい さつ 世界のお札のウラについて

- お札のウラには、その国の代表的なものが描かれることが多い。  
→ 国民や外国の人に対して豊かな自然や発展の様子などその国のすぐれたところをアピールしているんだ。
- お札のウラにデザインテーマが決められている国が多い。  
→ 表面に描かれている人物と関連したテーマや裏面のみのテーマなど様々なパターンがある。  
その国がアピールしたいことがよくわかる。





# じじつ はっけん びっくり事実を発見せよ！



からくさ

「だいこくやほうおうから世界のお札の裏面の様子を聞いたけれど、それ以外にお札には変わったデザインや見た目が個性的なものがあるようだ。そういうお札なら、裏面も珍しさに違いない。まずはいろいろな珍しいお札を探そう。」

## ましろ さつ 真っ白なお札

これまで見てきたように、お札の裏面には各国が誇るべき自然や動物、発展の様子などが図柄に描かれるものが多いです。日本のお札の裏面も同様です。しかし、昭和時代の初めに唯一白紙のお札（図20）が発行されています。

このお札が誕生した背景には、当時の社会の様子に関係しています。大正12(1923)年に起こった関東大震災で関東地方は大きな打撃を受けました。震災からの復興がうまくゆかなかった多くの企業が倒産し、それに伴って休業する銀行が相継ぎました。人々が銀行預金を引き出そうと銀行に押し掛けたのが、取付け騒ぎと呼ばれるものです。このままでは銀行で保管するお札がなくなってしまうことが想定されたため、急いでお札を大量に製造する必要がありました。出来るだけ早くお札を製造しなければならなかったため、裏面の印刷を省略したお札を作ることとしたのです。



図20 日本銀行兌換券乙 200円  
昭和2(1927)年

3日間で511万枚  
も作ったんだって！



## サインがいっぱいあるお札

お札の裏面に文字が書かれているお札は多くあり、そう珍しいものではありませんが、このお札（図21）が大きく違う点は、手書きのサインがたくさん書かれていることです。このサインはこのお札を使った人のもので、裏面を見ればお札がどの人の手を渡ってきたのかが分かるようになっています。

この裏書はお札の成り立ちを指し示すものです。

もともと金属で出来たコインがお金として使われていましたが、コインは遠距離を運ぶときに重くて不便なことから、後でコインと引き換えられる預証が代わりに使われるようになりました。この預証がお金として通用するようになったのがお札の始まりです。素材に価値のある金貨や銀貨と違って紙で作られたお札は、使う人がお金としての価値を認めないと流通しません。これが、お札が「信用通貨」とも呼ばれる理由です。このお札の裏書は、このお札は使っても大丈夫というなよりの証明となるのです。この中国のお札のように利用者がサインを裏書する例は、お札がお金として使われ始めたころのものに見られます。

なお、お札が信用を得てお金として普通に使われ、また、印刷技術が発達して偽造防止効果のあるお札が作られるようになると、裏書の必要はなくなりました。



図21 中国（清朝）  
戸部官票3兩 1855年

## メッセージが託されたお札

お札は不特定多数の人が使うものです。この特徴を利用して、お札にメッセンジャーの役割を持たせたものがあります。

例えば、アメリカのお札（図 22）には「IN GOD WE TRUST（我々は神を信じる）」と国の標語が書かれています。同様に、2012年に発行されたジャマイカ 1000 ドルのお札には、国章にも書かれている、「OUT OF MANY、ONE PEOPLE（多数から一つの人民に）」という言葉が印刷されていました。

このように国のモットーを日常的に利用するお札に書き、利用者の目に触れやすくすることで、その精神を国内外に伝えようとしているのです。

## お札に見えないお札

一見、切手に見えるこのお札（図 23）は、ロシアの 10 カペイカという小額のお札です。裏面には、ロシア語で「コインと同等に通用する」と書かれており、これがお札であるということを表しています。では、裏面を見なければ、切手と誤解されそうなものを作ったのはなぜでしょうか。

それは、製造上の事情が関係しています。このお札が作られたのは、第一次世界大戦のさなかで、コインの材料となる金属は兵器に使われたためにコインの製造ができませんでした。その代わりに緊急でお札を作ることにしたのですが、一から作るのでは時間がかかるため、記念切手の版を流用したのです。スペイン（図 24）でも同様のお札が作られましたが、円形の台紙に貼り付けることで見た目をコインに似せています。

これらのように緊急時に代用品を使ってお札が作られる例は他にもあり、日本でも実際に発行はされなかったものの、債券用の版を流用してお札を作ったことがあります。

## どちらが上なのか分からないお札

ここで、変わったデザインのお札を紹介します。

ブラジルでは 1970 年代から 80 年代にかけて対角線を対称に図柄が配置されているお札（図 25）のシリーズが発行されました。このお札の表面には人物肖像が描かれていますが、裏面同様の配置になっていて、上下が定まっていません。

このデザインでは、お札を渡す側と受け取る側の両方にとって図柄の正面が向くようになっていきます。この構図はこれ以外のお札には見られず、今となっては珍しいものとなっています。



図 22 アメリカ 1ドル 2009年



図 23 ロシア 10カペイカ 1915年



図 24 スペイン 10センチモ 1938年



図 25 ブラジル 500クルゼイロ 1981年



## うらめん ぎじゆつ 裏面の技術

さいご さつ ぎぞうぼうし ぎじゆつ しょうかい  
最後にお札の偽造防止技術を紹介します。

お札にとって、信用が失われる原因となる偽札は最大の敵となります。そのため、偽造防止はお札を製造するうえで重要な事柄であり、お札の製造元では、日々偽造防止技術の研究開発が行われていますが、これまでのお札の裏面に使われた偽造防止技術のなかには変わったものがあります。

まずは、特殊なものを貼りつけたお札です。

おおくらしょうだ かんしょうけん ず じょうぶ あお いんし ほ つ いん  
大蔵省兌換証券(図26)には上部に青い印紙が貼り付けられています。この印紙はオーストリア製のもので、淡い青の模様が当時の写真技術で撮影しづらかったことから、お札の偽造防止のために使われました。この時の日本のお札の印刷は、地模様がなく図柄のみが印刷されたシンプルなものだったため、この印紙を貼り付けて偽造に対する抵抗力を上げようとしたのです。

印刷面で珍しいものとしては、アメリカのお札(図27)があります。このお札は大陸紙幣と言って、アメリカ独立戦争時に発行されたお札です。このお札の裏面は本物の葉っぱをもとに原画を作成し、印刷したものです。自然の葉っぱの葉脈(筋)が複雑なために再現が難しく、偽造防止となるためです。

偽造防止技術には、表裏のどちらが欠けても成立しない技術があります。それを表裏刷り合わせ模様といいます。この技術は、お札の表裏の同じ場所に同じ文字や図柄を印刷するというものですが、その図柄や文字は表裏で違う部分が欠けたものとなっており、これらの図柄を光にかざすと完全な形になるように見えます。これは、表裏の図柄がきっちり同じ場所に印刷されていないときれいな形に見えないことから、高い印刷技術が必要です。これがフランスで1950年代に発行されたお札のシリーズで採用されて以降、世界中のお札に使われていますが、製造上の事情により日本のお札には使われたことがありません。表裏刷り合わせ模様は、片面だけでは成り立たないことから、その他の技術とは一味違うものです。



ず おおくらしょうだ かんしょうけん えん  
図26 大蔵省兌換証券5円  
めいし ねん  
明治4(1871)年



ず  
図27 アメリカ 70ドル 1779年



ず  
図28 アルゼンチン 200ペソ 2016年

ミナミセミクジラの尾びれの表裏刷り合わせ模様  
みぎうえ:うらめん みぎなか:表裏刷り合わせ模様  
みぎさき:裏面、右中:表面(逆像)、右下:すかした時の画像

### ほうこくしょ 報告書

### にっぽん さつ れきし 日本のお札のウラの歴史について

- お札のウラからお札の性格が見えた！  
→ 紙からできたお札がお金として使われるためには、信用されることが一番重要なんだ。
- 形がめずらしいお札はウラも珍しかった。  
→ 緊急時に作られるお札は、通常の製造工程でできない場合が多い。だから、印刷や形が普通と違うものが作られるんだ。
- ウラがキーになる偽造防止技術がある。  
→ お札の裏面にもいろいろな偽造防止技術が使われているけど、表裏一体型の技術は珍しい。



## さいしゅうほうこくしょ 最終報告書

## にっぽん さつ れきし 日本のお札のウラの歴史について

日本のお札の裏面を観察すると、図柄のほかに模様や文字があるのを見つけた。文字からは、昔のお札が今とは違ってコインと交換できたことを発見した。描かれている図柄からは、昔は表面の図柄と関連したものが描かれてきたが、今では日本の代表的な自然や動物などの図柄に変化しており、その一方で、地模様を加えたり、多色刷りにしたりといった偽造防止のための工夫がされてきていることが分かった。

世界の国のお札も人物肖像が描かれていることが多い表面と違って、裏面には動物や風景、歴史的な建物などが描かれていて、その国の魅力や特徴が表されている。テーマに沿って図柄を描く国も多く、各国のアピールポイントが分かる。お札の裏面を見るだけで、世界旅行気分が味わえる。

珍しい裏面を持つお札のなかには、素材が紙のお札は、使う人に信用してもらわなければ通用しないというお札ならではの事情が分かるお札があった。また、緊急時に作られたお札からは、当時の歴史を知ることができ、お札も歴史に影響されることが分かった。

このように、お札の裏面からもとても多くの知識が得られるということをこの調査で発見した。

今度からは裏面も注目してお札を観察しよう。

## ほうこくしょ あなたの報告書(メモ)

### 参考文献・インターネット

大蔵省印刷局『大蔵省印刷局百年史』第1～3巻 大蔵省印刷局 1971

大蔵省印刷局『日本銀行券製造100年 歴史と技術』大蔵省印刷局 1984

日本銀行調査局『図録 日本の貨幣』第7～9巻 東洋経済新聞社 1973-75

植村峻『紙幣肖像の近現代史』吉川弘文館 2015

// 『お札の文化史』NTT出版 1994

内蒙古銭幣研究会他編『中国古鈔図輯』中国金融出版社 1988

各国中央銀行・発券機関ホームページ

外務省ホームページ

独立行政法人国立印刷局  
 お札と切手の博物館

〒114-0002 東京都北区王子 1-6-1

TEL: 03-5390-5194

<https://www.npb.go.jp/ja/museum/>

発行日: 令和4年7月20日

編集・発行: 独立行政法人国立印刷局

お札と切手の博物館

本書掲載の内容を許可なく複写・複製・転載することを禁じます。